

テーマ：ホストファミリーになる

Instagram投稿、WEB バナー、ポストカード制作の素材と条件

キャッチコピーやその他の文字素材については、自分なりに考えてもいいですが、思いつかない場合には、下記の案を使用したり、参考にしてアレンジしたりしてみましょう。

【キャッチコピーの例】

- 世界が広がるホストファミリー体験
- リアルで身近なグローバル体験
- 家族で世界とつながろう
- 家族が増えた一年は、笑顔と会話が増えた一年でした
- もっと知りたい、だから私は受け入れる

制作物規定

以下の作品をそれぞれ1点ずつ、計3点を制作してください。

- Instagram投稿 (1 : 1、1080×1080 ピクセル)
- WEB バナー (サイズ : 728×90 ピクセル もしくは 970×250)
- ポストカード (100 × 148 mm)

必須項目

- 「AFS」の名称 (ロゴでなくても可)
ただし、AFSの頭文字で American Field Service 以外のコピーをつくることはできません
- キャッチコピー (自作も可)
- 募集サイトへのリンク、もしくはQRコード <https://www.afs.or.jp/hosting/>
- ブランドガイドラインを参照してください ※別資料

写真素材・写真の説明

AFSから提供する以下の写真の他に、イメージに合う写真（オリジナル・未発表）も使用可能です。

留学生とホストファミリー すべて加工OK（クレジット不要）



【AFS】 host-family01



【AFS】 host-family02



【AFS】 host-family03

来日したばかりの生徒は、言葉も分からない異国で、どんな人たちとこれから一緒に住むのだろうという不安を持っています。しかし、数か月もすると、ほとんどの生徒が生活に慣れていきます。10ヶ月を過ごし帰国が迫るにつれ、生徒たちは「あっという間だった」「帰りたくない」と言います。そのような変化を生み出すのは、生徒と家族双方の努力であり、地域の人々の留学生と関わろうとする力です。

AFSは、そんな留学生と家族や学校、地域との橋渡し役をして、相互理解に努めています。

1. ホストファミリーになるには

AFS では「異文化交流を通じて公正で平和な世界の実現を目指す」という AFS の精神に共感し、留学生を家族の一員としてあたたかく迎え入れて下さる方にホストファミリーをお願いしています。「英語が話せない」「家が狭い」といった心配を持つ方も多くいますが、留学生は日本での生活を体験しにきており、普段どおりの生活をしていただくことに意味があります。また、同じ年代の子どもがいなくても大丈夫です。夫婦二人のご家庭や両親のどちらかが単身赴任中のご家庭も、ホストファミリーになっています。異なる価値観や生活習慣を持つ多感な 10 代の生徒を受入れるため、時には衝突することもあります。柔軟性をもって接することが求められます。

2. 20,000 人それぞれのドラマ

1963 年に初めての留学生を受け入れて以来、AFS は 2020 年までに、計 89 개국から 19,442 名の留学生を受入れてきました。留学生の滞在期間は 3 か月～10 か月までさまざまです。複数のホストファミリーを経験する生徒もいますが、どのホストファミリーも留学生とオンリーワンのストーリーをつむいでいきます。

3. 家族で学ぶ体験

AFS は世界各国で活動していますが、通常プログラムではどの国も無償で生徒を受け入れています。違う国で暮らしてきた普通の高校生を家族の一員として受け入れることは簡単ではないかもしれません。けれども、そんなホストファミリー体験は、家族みんなで異文化理解について学び、国際感覚を養う絶好の機会でもあります。日本にいながら異文化に対応する力を養ったり、コミュニケーション力や共感する力を養ったり、世界の出来事への関心を高める経験になります。違う国の生徒を受け入れることで、自分自身や日本文化を再発見することもあるでしょう。ホストファミリーになることは「家族で多様な価値観や文化を共有できる体験」なのです。

ホストファミリー体験者の声

- 自分の知らない国の文化や生活の様子をその国に行かなくても知ることができ、自分の視野を広げるだけでなく、自分の心を豊かにしてくれる尊い経験だと思えるから。外国のあちこちに友人がいると思うと心豊かで幸せに感じます。
- インターネットで情報はいくらでも集められますが、そこでは知り得ないナマの情報を、その人の声で聞くことができます。ありきたりな言葉になってしまいがちですが「かけがえのない経験」とは、まさにこのことだと感じます。
- お互いの本音をぶつけあい、お互いにあった心の壁が取り去られたとき、私たちは本当の家族になれたと感じました。送別会のスピーチで留学生が『本当に家族になった。家族みたいじゃなくて、家族みたいに見えるじゃなくて、本当の家族です。』と言ってくれ、思いが同じであったことが何よりも嬉しかったです。この 1 年、私は日本の母として精一杯の愛情を留学生に注ぎ、留学生もそれに「お母さん大

好き」という気持ちで応えてくれたと思います。大変ではありましたが、最高に幸せな1年でした。

4. 参考 留学生&ホストファミリーの声

ホストファミリー体験談

[ASIA KAKEHASHI 留学生&ホストファミリーの声](#)